

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

Think Cosmically Act Locally

中北地区地域教育推進連絡協議会

10月19日(木)に甲斐市双葉ふれあい文化館で、中北地区地域教育フォーラムが開催されました。北杜高校ギター部の素敵な演奏と、JAXA宇宙教育指導者 宮川広氏と株式会社ひまわり市場代表取締役 那波秀和氏の“明日も頑張ろう!”という力をいただけた講演でした。内容の一部をご紹介します。

北杜高等学校ギター部

北杜高校は知る人ぞ知るギターの名門校。何と創部50年!その実力は折り紙付き。全国大会に毎年出場し連続での金賞を受賞中。本年度も全国学校ギター合奏コンクール2023で見事金賞を受賞しています。その力の秘密は、卒業生が外部指導員としてバックアップを続けるという体制が整っていることにありそうです。専門的で継続的な指導の下での活動がないとこのような成果は出せないでしょう。地域や卒業生の想いがその学校の魅力を支えている好例です。また、学校と地域の交流の一環として、定期演奏会の他、様々な地域行事での演奏活動を行っているそうです。



今回、演奏を披露してくれたのは3年生引退後伝統を受け継いだ1・2年生21名。部訓「感動を 感謝を」のもと、感動と感謝を伝えられる演奏を目指し、日々練習に励んでいる成果を発表してくれました。当日はリハーサルも制限が多い中でしたが、皆背筋がピンと伸び、集中して音を確認している姿が印象的でした。演奏ですが、まず、その演奏レパートリーの広さに驚かされます。和洋新旧のジャンルを自在に演奏するのは、美しく繊細ながらも、若々しいエネルギーにあふれた演奏を展開してもらい、清々しい沢山の元気をいただきました。今回の若いながらも堂々とした深みのある演奏は、卒業生が繋いできた底力で、その想いやプレッシャーを糧にさらに演奏に磨きをかけてゆくのでしょう。来年のコンクールが楽しみです。

宮川 広 氏講演会

空を見上げ 夢を語ろう ～工場から宇宙へ飛び出すエンジニア～

講演のほぼ最後、モニターに映し出された標高5,000mの満天の星空。その圧倒的な映像美は時空をも超え、みている我々の心を驚掴みしました。それぞれの“想い”がそこに宿ったはず。宮川先生は1950年生まれで出身は甲州市。三菱電機株式会社・航空宇宙部門、JAXA・人工衛星追跡管制隊を経て、なんと60歳という年齢で国立天文台・チリ観測所の職員の座を勝ち取ります!日本の宇宙三大部門で国際プロジェクト等に携わった日本で唯一のエンジニアとしての経験の話、貴重な映像と共に、聴衆はぐいぐい引き込まれていきます。高ストレス下に置かれながら国際的なプロジェクトに参加し続ける秘訣を、チームワークやコミュニケーションを大切にする、大好きな運動を毎日できるだけ欠かさない、趣味の写真で和む、等々だと明かしてくださいました。何よりご自身の唯一無二な貴重な経験を還元するべく、山梨の人々や子ども達の人づくりのために、講演や番組作りを意識して積極的にしているという高い志に熱いものがこみ上げます。 (裏へ続く)



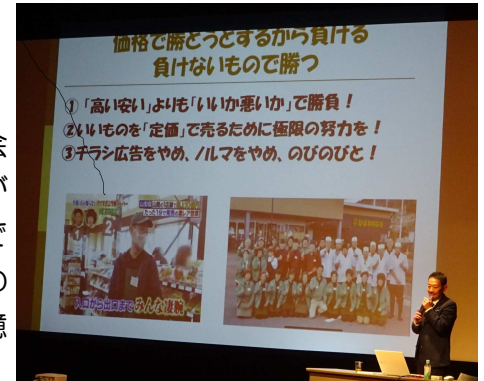
宇宙飛行士になりたいという子を持つ親御様の質問に「お子さんが好きなこと・今やるべきことをとことんやり、それを一緒になってやってあげて下さい」と丁寧な回答する姿に、お人柄がにじみ出ていました。貴重な映像と共に、素晴らしい実績を持つ方が身近にいるのだと実感し、本当に元気の出る講演会でした！

那波 秀和 氏講演会

目指しているのは日本一！ 人と夢を売るスーパーマーケット

那波社長を有名にした「マイクパフォーマンス（以下MP）」。「講演会中一度も座ることなく熱く語り続ける姿は、あたかも講演会そのものがMPのようであり、社長の男気を感じました。那波社長は神奈川出身で1969年生まれ。大学卒業後、24歳でヤオハンジャパンに就職。その後、平成13年に北杜市大泉町のスーパーひまわりに入社。当時負債4億の経営が厳しかったスーパーを気合と情熱で立て直し、今年年商12億。

日本全国からお客様が押し寄せるスーパーにまで押し上げます。秘訣の一つは「いいものを定価で売る」それも大量に。経営難の時代、安売りは大手には勝てない、そこできちんと利益を出すための逆転の発想。簡単なようですが、スーパーで高いものを適正で売ることが至難の業、当然苦戦したのです。狭いスペースで最大限に利益を出すべくことに思案を重ね、キャッチやMPが生み出されたとか。確かに、会場で披露して下さった社長のMPは、うっかり買いたくなくなってしまう魔力があります。何より従業員とその生活を大切に考え、お客様の満足のため、入り口から出口まで全て笑顔で接客。出来そうで出来ません。印象に残った言葉は、「お金のために無理していやなことはしない。自分の好きなことを一生懸命やる。」最後はこれが成功につながると。社長の想像も出来ない苦勞に裏打ちされた、人生の選択の最大の要素なのかもしれません。これまた熱い想いと元気を沢山いただき、前を向いて頑張ろう！と思わせていただけた講演でした。



●講演後のアンケートから（※敬体を常体に省略しております）

- ・演奏はもちろん、高校生の所作、視線の力強さ、どれもさすがだった。また聴いてみたい。地域に元気をもたらす演奏だった。
- ・とてもすばらしかった。とてもよかった。癒やされた。（ギター部、多数）
- ・宇宙の広さに感動するとともに、トラブルにぶつかった時に乗り越えられる精神力の強さ、その強さを作り出すポジティブカにとっても感銘を受けた。子どもを育てていく中で大きな勇気と知恵をいただいた。
- ・赤字経営のまま引き継いだ会社を黒字にさせた、他社との差別化で生き抜く強い力を感じた。人を大切にする那波さんの人柄、情熱、奥様の内助の功がとても素敵だなと思った。
- ・2つの講演が全く違ったが、とても興味深い話で楽しく聞くことができ、今後に生かせる内容でもあったのでとてもよかった。職場のトップとして、情熱を持ってこれからも働いていきたい。
- ・教育フォーラムの近年3年間の内容を見ると、子どもへの関わり方、ストレスマネジメントなど課題に対応するための手段等が示されるものが多いようだが、今回は夢に向かって力強く進んでいる方の話で、参加された方も活力をいただき、顔を上げて前に進んでいける内容だったと思う。課題対応型の内容もよいが、今回のようなお話であれば、多くの方が勇気と元気をもらい笑顔になることと思う。結果的に各家庭でも笑顔があふれることと思う。
- ・人を育てる仕事の基本の基本の部分が聞けたように思う。

ふるさとを知る、深める

ふるさと山梨郷土学習コンクール

郷土に興味・関心を持ち、研究に取り組んだ成果を表彰する「第16回ふるさと山梨郷土学習コンクール」の表彰式が、10月16日、山梨県総合教育センターで行われました。地域を知り、湧き上がる疑問に取り組んだ内容は、大人では気がつかない観点からのアプローチもあり、審査した先生方も山梨の魅力を再発見していました。調査・研究を着実にやり遂げた、受賞者の皆さんの満足感あふれる発表や発言も印象的なひとときでした。



今年度は「ふるさと山梨大賞（知事賞）」を小・中ともに中北地区の作品が受賞する快挙をはじめ、この地区で沢山の児童生徒が受賞しました。「学校奨励賞」は、双葉東小学校、長坂小学校、韮崎西中学校、若草中学校、甲陵中学校、山梨大学教育学部附属中学校が受賞しています。入選作品のうち、大賞・優秀賞受賞作品は、山梨県立博物館にR6.1/2～2/19まで展示予定です。

いかのおすし 忘れずに！

山梨県甲斐警察署

甲斐警察署では、管内の小学校に防犯教室や防犯講話を実施しています。今回は10月27日に甲斐市立竜王北小（坂本公彦校長）で行われた防犯講話（不審者）を取材しました。



不審者に対する心構えを児童に伝える講師は、甲斐市警察署生活安全課の尾崎可奈氏（以下先生）です。今回の講話の対象は1～3年生。低学年が中心ということもあり、先生は、明るくはきはきと、児童にしっかりとトーンをあわせませす。その様子はさながらテーマパークのアトラクションのクルー。まさにプロの技。「世の中

には子どもたちを狙う悪い人がいる。不審者にあってしまったとき、どのようにしたらいいのか考えていきましょう。」講演の児童に対する「めあて」もバッチリです。不審者はいかにも怪しいという人ばかりではなく、老若男女問わずいることがあるので見た目では判断してはいけないと諭します。一番の盛り上がりは、警視庁が子どもを犯罪から守るために呼びかけている「いかのおすし」の場面。

「「いか」は何かな」、「ついて「いか」な～い」特に1年生は鋭い反応を見せます。さらに、児童は全てのワードに反応していきます。ということは普段の学校での指導が行き届き、身につけているということなのですね。流石です。先生も「年に1回、改めてしっかりと考えることが大切なんだよ。」と。警察署の皆様、これからもご指導よろしくお願ひいたします。



ついて「**い**か」ない
車に「**の**」らない
「**お**」おごえをだす
「**す**」ぐにげる
おとなの人に「**し**」らせる



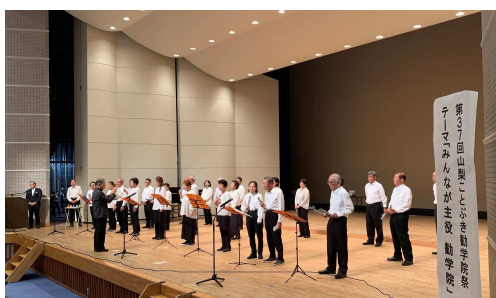
「「いか」は何かな」、「ついて「いか」な～い」特に1年生は鋭い反応を見せます。さらに、児童は全てのワードに反応していきます。ということは普段の学校での指導が行き届き、身につけているということなのですね。流石です。先生も「年に1回、改めてしっかりと考えることが大切なんだよ。」と。警察署の皆様、これからもご指導よろしくお願ひいたします。

いきいきと そして真剣に

山梨ことぶき勸学院

第37回山梨ことぶき勸学院祭が10月31日、甲府市総合市民会館芸術ホールにて行われました。待ちに待った4年ぶりとなる開催、限られた時間ではありましたが、各教室で趣向を凝らし、歌や踊り、ミュージカルから寸劇などを採り入れ、笑いあり、感動あり、心と体が踊る、そんな充実した日となりました。テーマは公募により『みんなが主役 勸学院』に決定。4年ぶりであることや感染症も心配されるなか、入念に準備がなされる中での開催です。感慨もひとしおです。

中北教室も各学年で紆余曲折、ときに侃々諤々な議論を交えながら演し物や演目を決定し、8月の末から練習を重ねてきました。2年生は揃いの中北の黒Tシャツに赤の鉢巻きと羽織という出で立ち。皆さん相当様になっています。今年は武田信玄公没後450年となる節目の年。ゆかりの深い中北地区ではそれにちなんだ演目です。最初に『新府城』を皆で歌い、詩吟もバッチリ決まります。次は『武田節』にあわせての踊りを披露。指導は千祥弥生先生。先生の様になる振り付けと指導の成果が発揮され、皆さんそれぞれ丁寧にしっかりと力強く踊りきることが出来ました。「エイエイオー」最高に充実した感があふれていました。



1年生はガラッとイメージを変えて、トーンチャイムの演奏です。沢登京子先生に指導頂きました。聞き慣れない楽器ですが、美しい音色で音楽ホールによく映えます。皆さん白と黒の衣装で統一され、イメージは既にプロといった感です。『ふるさと』つづけて『荒城の月』を演奏。心が洗われる響きです。最後の『小さな世界』は会場の拍手と一体となり、何とも言えない優しい空気に包まれました。

皆さん達成感に包まれた中での帰宅です。来年も楽しみですね！

富士見支援学校（小倉正一校長）は山梨県の研究指定を受け、ICT教育に力を入れています。その取り組みの様子とそれに絡め今年度迎えた創立40周年の記念行事を紹介します。

【ロボットプログラミング選手権（病弱教育部門）に向けて】

ロボットプログラミング選手権は、プログラミングされたロボット同士が土俵の上で押し相撲を取り競う大会です。専用のロボット「プロロ」に専用アプリで作成したプログラムを転送することで自走します。難しいプログラミング言語を使わず、パズルのようにブロックを組み合わせ作成するので、簡単にプログラミング思考が育成できます。昨年度は関東大会を勝ち抜き、見事全国大会に進むことができました。今年度は惜しくも関東大会で敗退しましたが、どのようにプログラムを組めば勝てるのかを必死で考え作成していました。



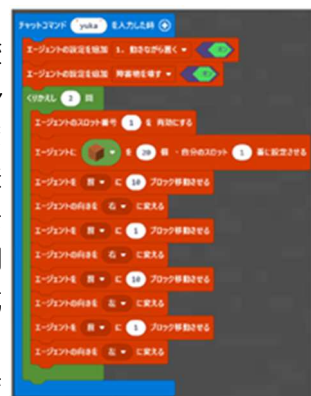
【40周年記念行事に向けて】

昨年度から創立40周年記念行事に向けて、マインクラフトエデュケーションを使用した校舎建築プロジェクトをスタートさせ、校舎の設計図をもとに分担しながら校舎建築を進めました。40周年をお祝いするために異なる学年が協力してグループを作り、校舎の装飾を行いました。「花グループ」「ケーキ・ロウソクグループ」「花火設置グループ」のそれぞれが工夫をこらして校舎をより素敵に彩りました。エージェントを使用したプログラミングのやり方を



学び、みんなで「ロボットダンスフェス」を開催しました。一人一人がプログラミングで作成したユニークな動きを披露できました。

完成された校舎は、創立40周年記念行事で披露されました。会場全員でカウントダウンを行い、40周年の文字が浮かび上がると、会場の盛り上がりは最高潮に達しました。



#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます

昭和町青少年育成カウンセラー 佐久間 美智也

私の担当している業務の一つに高生連の事務局の仕事があります。最大のイベントが本町の「ふるさとふれあい祭り」の「高生連縁日コーナー」です。町内の中高校から募集した学生ボランティアにこのコーナーの運営の一部や環境活動にかかわってもらうことで、これからの地域を支える青少年の育成に資するものになりたいと長年行ってきた企画です。コロナ等で5年ぶりの実施でした。カウンセラー1年目の私には、本当に何もかもが手探りの状況でした。迎えた当日、早朝の事前準備を進めていたところへ、学生ボランティアが集まりました。全員が会するのはこれが初めてです。初めは緊張していた学生もどんどん対応しています。その中で、少しずつブースごとに一人一人の創意工夫が出始めます。小さな子どもから大人までそれぞれに応じた対応を笑顔でしてくれています。この様子に、理事さんたちも安心したかのように後ろの席にすわって見守っています。参加者の弁当が届きましたが、客は途切れず、どうするか様子をうかがっていると、あるブースでは、中学生が仕事を引き受けるのでと、高校生に先にお弁当の時間をゆずっています。少し戸惑った様子だった高校生も、お礼をいって任せます。仲間意識が生まれた瞬間でした。心配された雨も小雨程度で済み、店じまいを迎えました。ブースでは理事さんの計らいで最後に残った食材で学生が自分用を作り、安堵の顔を見せながら味わっている姿が印象的でした。学生にも、それを見守った理事さんたちにも充実のひとときとなりました。